

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

梅のつぼみがほころぶ季節となり、春の訪れが待ち遠しく感じます。年明けといえば箱根駅伝、ご覧になりましたでしょうか？青山学園4連覇、導いた

のは原監督。原監督が選手達に送った言葉「メッセージを伝えるのに強くないと意味がない。オレに力をくれ、勝って欲しい」とお願いしたとの事。勝つために自分自身を震い立たせる言葉だと感じました。介護職には勝ち負けはありませんが、いかにご利用者様の心に響くサービスの質を上げられるのが今年の課題だと目標を決め、ここに誓ったしいでございます。

まだまだ寒さが厳しいですが、お風邪など召ませぬようお気を付けてください。

サンライズの物語

思い描いた最期を全うしたい……ご兄弟との強い絆の物語



その方はお母様の時からのかわりでした。お母様の最期は前日まで孫たちとお寿司を食べ歓談し、三女さんとお風呂に入ったとの事。その次の朝眠るように永眠されました。

2年後のある日、同居していた長女さんから連絡があり、昨年大動脈解離に罹患し入院中に転倒、右手首を骨折したとの事。介護保険認定を受けたいとの相談があり認定を受け担当のケアマネとなったのです。

ご兄弟が毎日泊まり込みで介護をされ、ご兄弟の絆の強さに感激しておりました。介護保険サービスも最小限で利用されており、自分ができなくなってしまうことを懸念されていた方でした。

韓流スターの後援会の役員もされ、何度も韓国へ行っていたので回復したら又韓国へ行くのが目標となっていました。

最後にお会いした時も日本でのコンサートに行き、大好きだった韓流スターに合ったことを嬉しそうに話されて

居た事を思い出します。

何時もご兄弟に感謝され自分でできる事を貫き通す姿が素晴らしいと感じてました。そんなある日ご兄弟様からの訃報に愕然と致しました。

連絡が取れないので自宅へご兄弟が訪問すると、眠るように息を引き取っていたとの事。大好きだったご両親の元へと旅立ったのでした。

ご兄弟様が弊社へ挨拶に来て下さった時も「きっと母が心配して姉を連れて行ったのだと思います。」と誰よりもご兄弟に迷惑を掛けたくないと言っていたので姉らしい最期だとも話されておりました。

自分の最期・・・誰もが他の人達に迷惑を掛けずにひっそりと願っていると思います。「朝寝して眠りの先に死があれば」何処かで聞いた文言です。

自分で思い描いた最期を全うする人はそうはいないと思います。

そんな素敵なご家族にめぐり会えたことに感謝致します。

介護に役立つ書籍紹介

親が倒れた！

親の入院・介護ですぐやること・考えること・お金のこと

太田差恵子 著

「介護」を乗り切るカギは「自己申告」と「情報収集」！

入院・介護で家族が担う役割は、必要な「情報」を集め、ケアの「方針」や「費用」を検討して、サービスを受けるための「申請・契約」をすること。本書では「短期的戦略・中期的戦略・長期的戦略」に分け、「いま」知るべきことを、わかりやすく紹介しています。



NEWS 今月のニュース

「命のカプセル」 京都府内で相次ぎ導入

高齢者を対象にした救急医療情報キット「命のカプセル」が、京都府亀岡市や京丹波町をはじめ、府内の自治体で相次いで導入している。かかりつけ医や処方箋を書いた紙を容器に入れ、冷蔵庫に保管しておき、緊急時に救急隊が役立つ取り組みだが、有効活用した例はまだ少ない。亀岡市はその有効性について周知徹底を図りたいという。

「命のカプセル」は2009年度から、亀岡市が府内の自治体に先駆けて1人暮らしのお年寄りや高齢者のみの世帯に配布を開始し

た。シートに病歴や緊急連絡先を記入し、処方箋などと一緒にプラスチック製の容器に入れておく。冷蔵庫のドアに「命のカプセル」と記したマグネットを貼っておけば、駆け付けた救急隊員に分かるという仕組みだ。

福知山市や長岡京市など12市町が導入し、亀岡市では、これまでに民生委員を通じて、のべ9940人に配布し、使用法について説明してきた。しかし、古い情報のままなどで実際に活用できない例が多い。京都中部広域消防組合によると、カプセルが活用された例は16年度は16件。高齢者全体の搬送数の0.4%に過ぎなかった。

同組合は「救急の現場は時間との勝負だ。命のカプセルは救急搬送の時間短縮につながる。利用法とその意義を知ってほしい」と話している。



< 京都新聞
2018年1月30日(火) >

今月の 名言

挫折してもプライドは失わない、それは努力しているからだ。

長嶋 茂雄

闘志溢れるプレイと無類の勝負強さで巨人の4番打者として活躍し続けた、「ミスター・ジャイアンツ」。彼の発言は、多くの人々に元気と勇気を与え続けています。

この言葉にも、日々の積み重ねを怠らず、努力を重ねてきた“長嶋茂雄らしさ”が込められています。

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>

